

▽日本精化の強みは。

「化粧品原料をはじめ、医薬品を患部に届ける技術であるドラッグデリバリーシステム（DDS）」

に使われる高純度リン脂質、広範な分野で用いられているフラインケミカル、コーティング剤、プラスチック用滑剤、環境衛生商品では手指消毒剤や業務用石けんなど、国内外の関係会社を含めさまざまな製品を手がけており、それぞれニッチ分野で活躍している。関わる業界は多岐にわたり、グループ全体では景気変動の影響を受けにくく、財務基盤も盤石だ。

▽今年2月に創業102年を迎えました。飛躍を遂げてこられた秘訣は。

「時代の変化に対応し、新製品、新事業を生み出し、ニーズに応えてきた。」

常に変革の意識を持ち、挑戦してきたことが要因だと考えている。今後新しいことに挑み、将来につなげていく。

▽重点を置く製品・事業は。

# 新社長登場

「主力の化粧品原料事業とともに、医薬用高純度リン脂質事業も拡大させる。全世界で新薬の開発が減少しているなか、承認されている薬で異なる

「主力の化粧品原料事業とともに、医薬用高純度リン脂質事業も拡大させる。全世界で新薬の開発が減少しているなか、承認されている薬で異なる

## 日本精化

横顔

経営企画が長く、3代の社長のもとで鍛えられた。変化の速度は速まっているが、自ら先頭に立ち、変革の意識を持って対応するという脈々と受け継がれるDNAを示す。社長就任のあいさつ回りでは前社長の矢野進会長の助言を受け、冒頭に「名字は同じですが、親族ではありません」が決まり文句に。



矢野 浩史 氏

る疾患に対して薬効を見出すドラッグリポジショニング（既存薬再開）や、有効な治療法が

見つかっていない疾患に

# 常に変革を意識し成長

▽海外展開はいかがですか。

「化粧品原料は、東アジア市場の開拓に力を入れて取り組んでいる。中国では有力な代理店と手を組めたことが奏功し、現地のニーズに基づいた素材を作り、採用実績を積み重ねるなど順調に進展している。人口が増加し若者の比率が高い東南アジアでも、化粧品原料を拡販しているけるよう市場調査を行っている」

〔やの・ひろし〕1989年（平成元年）立命館大学法学部卒、同年日本精化入社。2006年9月企画室長、10年執行役員、15年取締役精密化学品事業本部長、17年同リピッド事業部長、20年6月代表取締役執行役員社長。大阪府出身、56歳。

### 略歴

る。こうしたことを背景に、1回の投資額としては過去最高となる約27億円を投じて高砂工場（兵庫県高砂市）内にプラントを新設し、生産能力を増強することを決めた。すでに着工しており、22年内に完工、稼働させた

▽さらなる成長には新規事業が欠かせません。

田旭郎

「企業にとって人は最も重要であり、人材育成はもちろん、働き方改革も推進していく。本社、各工場などではデジタル化も進めていきたい」（聞き手＝細井康弘、池田旭郎）

「海外で新規ビジネスも立ち上げたい。台湾で医薬用高純度リン脂質の商機を探っており、昨年には台湾で、プラスチック用機能性コーティング剤などを販売している台湾子会社と日本の研究開発部門が協力してセミナーを開催した」

▽解決すべき課題は。

「中長期を見据えた種まきが必要。この一環で、社長直轄組織として酵素技術のプロジェクトチームを発足させた。これまでに酵素を利用する製品、事業があり着目していた。酵素の特異的な反応を駆使して工程短縮を図ったり、新たな事業を創出できないか探索している。本格始動は今年10月以降を予定している。酵素を活用できれば環境負荷低減に寄与し、SDGs（持続可能な開発目標）で掲げられている目標の達成にも貢献できる」